



小学生がどんな新聞記事を読んだのかを計測し、社会とのつながりを「見える化」

たった10分、新聞を読むだけで多くの科目に触れられる 新聞×教育プロジェクト「10分の時間割」

8月3、4日に名古屋でNIE新聞全国大会名古屋大会が開催されるにあたり、子供たちに学校だけでなく、家庭での新聞の教育的価値や魅力を伝えるために立案された。

新聞には、教育現場で学んだことが数多く掲載されていることに着目。人がどこに視線を向けているかを計測するアイトラッキングを活用し、小学生が約10分間読んだ新聞記事を学校の教育科目に変換したデータを掲載した。参加した小学生も、そのシステムに驚き、今後はもっと新聞を読みたいという感想を話してくれた(詳しくは動画参照:下記二次元コードから)。

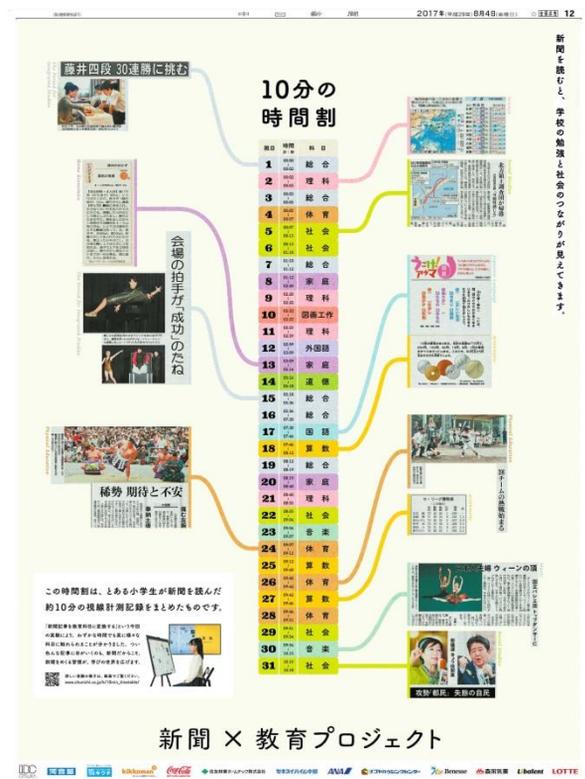
紙面は、1枚目に変換された科目で時間割を表現、めくった2枚目に実際に読まれた新聞記事の抜粋と計測方法を掲載した。

名古屋本社 広告二部 風岡友



←表面
裏面→

広告紙面の「時間割」をめくると、小学生が読んだ新聞記事と教育科目との関連性がわかる仕掛け。



2017年8月4日付 中日新聞朝刊

☑ 中日新聞特設サイトにて、実験の様子を撮影した動画を掲載しています



アクセスはこちらから↓



http://www.chunichi.co.jp/k/10min_timetable/

本件のお問い合わせは、中日新聞広告局 営業推進部 電話052-221-0692(2017/08/07)